

# 看護闘争ニュース

NO. 123

2007年12月17日

## 長時間夜勤・2交替制問題対策会議

# 増員で2交替のメリットを骨ぬきに！

11月25日、長時間夜勤・2交替制問題対策会議が、東京で開催されました。6全国組合・23県医労連・93名が参加をし、職場の実態とたたかいを交流し、教訓を学びながら、たたかう決意を固めあう対策会議となりました。

### 長時間夜勤の法的規制と職場でのたたかいの強化を

長時間夜勤・2交替制は、各地で粘り強いたたかいが続けられ、多くの単組・支部で、強行実施を押しとどめています。しかし、経営者の医療への先行き不安、経営効率優先などの姿勢から、最近では公的医療機関において導入提案が相次ぐ状況が生まれています。



このような状況のもとで、日本医労連として、長時間夜勤に対する法的規制をかける制度闘争とあわせて、各職場における取り組みを強化するために、対策会議を開催しました。導入が提案されるなどの動きがある単組・支部の代表、全国組合や県医労連の幹部が参加をし、熱心な論議が行われました。

### 「2交替許さない」の納得と共感ひろげる

対策会議は、看護対策委員の松田すい子（宮城）さんと森田しのぶ（京都）さんが司会を担当しました。西川活夫書記長の開会挨拶につづいて、井上久看護対策委員会事務局長が、長時間夜勤の今日的特徴、2交替制の問題点、医労連の夜勤政策と制度闘争、職場でのたたかいの強化等について基調報告を行いました。

実態報告では、長時間夜勤2交替制勤務の闘いの経過と現状などを、全医労の淀房子さん、全日赤の太田千枝子さん、国共病組の中島良子さん、東京医労連の仁井真記さんが報告。厳しいたたかいの中にも、ユニークな取り組みや笑いが、「2交替許さないぞ」と参加者に共感を広げました。

「2交替のメリットを骨抜きにするとは？」「社会的にどうアピールし法規制を作っていくのか」などの率直な質問もふくめて活発な討論が行われました。

大村淑美看護対策委員長が、看護労働の特殊性にも触れながら、長時間夜勤2交代制のメリット・デメリット論に潜む問題点や経営責任などを解明しながら、討論のまとめを行い、確信とたたかいの決意を固める対策会議となりました。



## 2008年春 看護要求実現全国交流集会

日時 2008年2月6日（水曜）13:30~7日（木曜）

場所 熱海市「後楽園ホテル」

記念講演

「看護を語ること

いまだからこそ看護の原点を」

川島 みどり氏

### 増員署名

(12月14日現在)

201,167 筆

応援メッセージ

松原徹さん

（日本プロ野球選手会事務局長）  
行動すること、今まで無理だと思っていたことが動き出します。次世代のためにも、最後まで諦めずに動き続けてください。

### 全日赤京都第1日赤労組

## 2交替導入に待った！ 準夜4人に増員

◆脳卒中センターで、2交替制の提案がされました。

組合は、「長時間2交替制反対」を正面から掲げ、①当該病棟の意見を聞くこと、②労基法8時間労働の大原則を守ること、③長期的に健康に働き続けられる勤務体制か、④患者の安全やサービス向上の視点からどうなのか、と追求しました。

12月6日半日ストを構えた5日の団交では、経営者は「11月29日に日勤者を中心に職場の意見を聞いた。その後、何度か病棟内で話し合い、はじめは『やってみようかな』という反応だったが、今は不安の方が大きい。職場の希望も踏まえ、準夜を4人にふやし、早出勤務を実施する。そのために1人増員する。今後、2交替の研究をする。組合との信頼関係を損なうことがないようにしたい」と回答し、実質2交替提案を取り下げました。



◆組合は、定期大会やスト集会でミニ学習会を行ったり、宣伝署名を強化したことや、反対署名などに取り組み、組合員や職員に見える運動ができたことが阻止した大きな力になった。また、看護部のメリット論にきちんと反論し潰してきたことや、職場の生の声や不安をつかんでいたも重要な力でした。

提案されていた病棟では、組合員を配転させ、組合員が1人もいない職場になっていました。初めは「やってみようかな」と思っていた病棟スタッフも、宣伝などの中で変化し、職員食堂の前で「反対署名」を集めている時、「私たちは決して賛成していません。反対署名をします」といって署名していきました。